

ログ出力

1. ランタイム製品のログの概要	2
1-1. 実行ログ (Cast / Screen / Expage / Print / PrintStage / PrintStageWeb).....	2
2. ログの設定	3
2-1. ログの出力 (Cast / Screen / Expage / Print / PrintStage / PrintStageWeb).....	3
2-2. ログのローテーション (Cast / Screen / Expage / Print / PrintStage / PrintStageWeb)	3
2-3. ログ設定ダイアログ.....	4
2-3-1. メイン設定ダイアログ	4
2-3-2. 詳細設定ダイアログ	5
2-4. ジョブ実行時のログ出力設定.....	6
2-4-1. ジョブ ID.....	6
2-4-2. ログファイル名	7
3. 実行ログの確認	8
3-1. ログビューアー概要.....	8
3-2. 起動方法.....	8
3-3. 画面説明.....	8
3-3-1. メイン画面	8
3-3-2. 表示件数設定画面	10
3-3-3. 表示項目設定画面	10
3-3-4. アーカイブファイル選択画面	11
3-3-5. ログプロパティ画面	12
3-4. ログファイルの追加.....	13

1. ランタイム製品のログの概要

Create!Form ランタイム製品ログの種類と出力内容は次のとおりです。

1-1. 実行ログ (Cast / Screen / Expage / Print / PrintStage / PrintStageWeb)

実行ログはジョブ実行時に出力されるログで1ジョブで2行出力されます。1行目が実行開始ログで2行目が実行終了ログです。実行ログには実行結果を示すメッセージ番号が入ります。開始 / 終了の出力形式は同様で、次の内容で出力されます。

```
2013/01/01, 00:00:00.000, 12345, Information:CS-00-01-0102, -Dsample -ssample.sty  
-osample.pdf sample.txt
```

[発生年月日], [時刻], [ジョブ ID], [メッセージレベル] : [メッセージ番号], [実行オプション文字列]

[発生年月日][時刻]

ログを出力した年月日および時刻を出力します。

[ジョブ ID]

実行ジョブを一意に識別する ID です。

[メッセージレベル]

Information/Warning/Error の3つがあります。

Information : 正常処理であることを通知します。

Warning : 処理の続行可能なエラーを通知します。

Error : 処理を中断せざるを得ないエラーを通知します。

[メッセージ番号]

メッセージに割り当てられた番号です。

メッセージ番号の最初のアルファベット2文字はランタイム名を示します。Cast の場合は「CE/GS」、Screen の場合は「HE/HS」、Expage の場合は「EE/ES」、Print の場合は「PE/PR」、PrintStage の場合は「SE/SS」が出力されます。

メッセージ番号の下4桁は、開始の場合は「0101」に、正常終了の場合は「0102」になります。エラーが発生した場合のメッセージ番号の下4桁はエラー番号になります。エラー番号の詳細についてはマニュアル「インストール・エラーコード一覧・制限事項 2. エラーコード」をご覧ください。

[実行オプション文字列]

ランタイム実行時のオプション文字列です。個々の実行オプションについてはマネージャーのメニュー [ヘルプ] - [オンラインマニュアル] から「5. 出力ランタイムの呼び出し」 - 「5.2 実行オプション」 - 「ランタイムを実行するときに指定する実行オプション」をご覧ください。

2. ログの設定

2-1. ログの出力 (Cast / Screen / Expage / Print / PrintStage / PrintStageWeb)

製品ごとにログファイルとしてログ出力先に出力することができます。ログの内容については「1. ランタイム製品のログの概要」をご覧ください。

ログファイルへの書込み権限がない、もしくはログファイルにロックがかかっているなどで、ログファイルに対して書込みが行えないことがあります。その場合は、LogWriteError_[ジョブ ID].log をログ出力先ディレクトリに出力します。ログ出力先ディレクトリに書き込めないときは、LogWriteError_[ジョブ ID].log を出力します。

LogWriteError_[ジョブ ID].log の出力先は、環境によって異なるフォルダーに出力します。

Windows 環境 : ユーザー設定 (共通) フォルダ
Linux 環境 : ランタイム製品導入ディレクトリ

ユーザー設定 (共通) フォルダはマネージャーの [ヘルプ]-[バージョン情報]-[バージョン情報詳細] で確認できます。

2-2. ログのローテーション (Cast / Screen / Expage / Print / PrintStage / PrintStageWeb)

ログ設定ダイアログにおいて設定したローテーション実施規則に該当する場合にログローテーションを行い、ローテーションしたログの出力先ディレクトリにログファイルを退避します。ログ設定ダイアログについては「2-3 ログ設定ダイアログ」をご覧ください。

ログローテーションの実施タイミングは、ローテーション実施規則での設定により異なります。ローテーション実施規則においてログファイルサイズ指定が行われている場合には、ログファイルのサイズが指定したサイズを超えた場合にローテーションします。最終更新年月日との差分指定が行われている場合には、最終年月日と現在日時との間で指定した年月日単位の値が異なる場合にローテーションします。

ローテーションによって退避したログファイルと同名のファイルがローテーションしたログの出力先に既に存在する場合は、新たに退避するログのファイル名は重複しないように変更します。

ローテーションによって退避したログファイルが保管世代数として指定した数を超えた場合には、自動的にファイルを削除します。

※以下、ログローテーションによって作成されるファイルを退避ログファイルとします。

<< 注意 >>

ファイルが誤って削除されることを避けるためにも、退避ログファイルの出力先には退避ログファイル以外のファイルを置かないようにして下さい。

退避ログファイルの出力先ディレクトリが存在しないため、退避ログファイルの出力が行えないことがあります。その場合は、退避ログファイルの出力先ディレクトリを新たに作成して退避ログを出力します。

ディレクトリの作成自体が行えない場合には、ログ出力先ディレクトリに退避ログファイルを出力します。

2-3. ログ設定ダイアログ

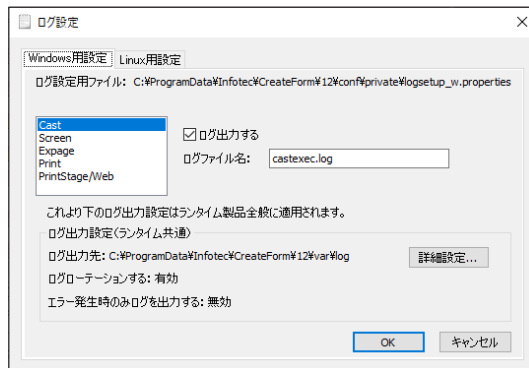
全ての Create!Form 製品で共通のログ設定機能です。

マネージャーを起動し、ツールバーの [ログ設定] をクリックすることで起動します。

※以下、ログローテーションによって作成されるファイルを退避ログファイルとします。

2-3-1. メイン設定ダイアログ

図：メイン設定ダイアログ



[Windows 用設定] タブ

本ダイアログを起動した端末にインストールされた Create!Form 製品のログ設定を行います。

[Linux 用設定] タブ

本ダイアログを起動した端末以外の端末 (Linux) にインストールされたランタイム製品のログ設定を行います。

※マネージャーから起動した場合のみ選択が可能です。

※設定内容を有効にするには、対象製品がインストールされた端末に設定内容を転送する必要があります。ファイルの転送については、「インストール・エラーコード・制限事項 第1部 インストール 第6章 共通設定 1-6-4 ログファイルの出力設定 2. ランタイム製品 (Linux)」をご覧ください。

[製品選択リスト]

製品名が書かれた一覧です。選択した製品のログ設定を行うことができます。

[ログ出力する]

ログ出力を有効にします。

[ログファイル名]

指定したファイル名でログが出力されます。

使用可能な文字は、半角英数字および [\$#@_-] の記号です。

[ログ出力設定]

詳細設定ダイアログで設定されている内容が表示されます。

詳細設定を変更する場合は [詳細設定] ボタンをクリックして下さい。詳細設定ダイアログについては「2-3-2. 詳細設定ダイアログ」をご覧ください。

2-3-2. 詳細設定ダイアログ

図：詳細設定ダイアログ

ログ詳細設定

この設定はランタイム製品全般に適用されます。

ログ出力先

ログ出力先: C:\ProgramData\Infotec\CreateForm\12\var\log

エラー発生時のみログを出力する

ログローテーション

ログローテーションする

ローテーションしたログの出力先: C:\ProgramData\Infotec\CreateForm\12\var\log

ローテーションしたログファイル名: castexec_202104.log

ログファイル名の 後 に YYYYMM を付与する

ローテーションしたログの保管世代数: 指定する (1-50) ログを削除しない

ローテーションルール

指定サイズに達したら分ける 10 MB

年月日が変わったら分ける 月

OK キャンセル

[ログ出力先]

[ログ出力先]

指定したパスにログファイルが出力されます。絶対パスで指定して下さい。

使用可能な文字と記号は次の通りです。

Windows: 半角英数字、全角文字、[¥/, ; : * ? " < >] 以外の記号

Linux: 半角英数字、[¥/, ; : * ? " < >] 以外の記号

[エラー発生時のみログを出力する]

エラー発生時のみログの出力を有効にします。

※メイン設定ダイアログの [製品選択リスト] で Cast、Screen、Expage、Print、PrintStage、PrintStageWeb のいずれかを選択している場合のみ設定できます。

[ログローテーション]

[ログローテーションする]

ログローテーションを有効にします。

[ローテーションしたログの出力先]

指定したパスに退避ログが保存されます。絶対パスで指定して下さい。

使用可能な文字と記号は次の通りです。

Windows: 半角英数字、全角文字、[¥/, ; : * ? " < >] 以外の記号

Linux: 半角英数字、[¥/, ; : * ? " < >] 以外の記号

[ローテーションしたログファイル名]

左側の [位置] プルダウンで退避ログファイル名に使用する年月日文字列の位置を選択します。選択可能な値は、年、月、日です。

右側の [文字列] プルダウンで退避ログファイル名に使用する年月日文字列の種類を選択します。選択可能な値は YYYYMMDD、YYYY_MM_DD、YYMMDD、YY_MM_DD、YYYYMM、YYYY_MM、YYMM、YY_MM、YYYY、YY、です。

選択した内容とマシン日付を元に作成した退避ログファイル名がサンプルとして画面に表示されます。

図：退避ログファイル名のサンプル表示

[保管世代数]

退避ログファイルの保存数を制限する場合は、[指定する] ラジオボタンを選択して [保管世代数] テキストボックスに保管世代数を入力します。保管世代数には 1 以上 50 以下の値を入力してください。

[ログを削除しない] ラジオボタンを選択した場合は退避ログファイルの削除は行われません。

[ローテーションルール]

ローテーションを有効にしている場合は、以下のルールのうち少なくとも 1 つを有効にする必要があります。

なお、両方のルールを有効に設定している場合は、いずれかのルールに合致したときにローテーションが実施されます。

[指定サイズに達したら分ける]

ファイルサイズによるログのローテーションが有効になります。

[ファイルサイズ] テキストボックスにてファイルサイズの指定を行います。ファイルサイズには 1 以上 99 以下の整数値を入力してください。単位は「MB」です。

[年月日が変わったら分ける]

年月日単位によるログのローテーションが有効になります。

[年月日] プルダウンから年月日単位の指定を行います。指定可能な値は、年、月、日です。

2-4. ジョブ実行時のログ出力設定

ジョブ実行時にオプションを利用してログ出力の設定をします。設定できるのは、ジョブ ID とログファイル名の 2 つです。

2-4-1. ジョブ ID

ランタイム実行時のコマンドラインに [-Lid] オプションを追加することで利用できます。実行オプション文字列の後ろに使用したいジョブ ID を入力して下さい。

※使用可能な文字は半角英数字のみ、かつ 128 文字以内です。

使用方法) -Lid[ジョブ ID]

使用例) -Lidjob12345

2-4-2. ログファイル名

ランタイム実行時のコマンドラインに [-Lfn] オプションを追加することで利用できます。実行オプション文字列の後ろに出力先として指定したいログファイル名を入力して下さい。

使用方法) -Lfn[ログファイル名]
使用例) -Lfncastexec. log
 -LfnC:¥ProgramData¥Infotec¥CreateForm¥12¥var¥log¥castexec. log

指定できるログファイル名にはファイル名のみもしくは絶対パスで指定することができます。ファイル名のみで指定したときは、ログ設定ダイアログで指定したログ出力先にファイルが出力されます。

絶対パスで指定したときは、指定したパスにファイルが出力されます。

<< 注意 >>

実行オプション文字列によりログファイル名を指定した場合は、ログ設定ダイアログで設定した値は無効となり、実行時の指定が有効となります。

絶対パスは 250 文字以内で指定して下さい。相対パスは絶対パスに変換した場合に 250 文字以内になるよう指定して下さい。

Linux では日本語のログファイル名は使用できません。

3. 実行ログの確認

Create!Form のランタイム実行ログの内容の確認は、ログビューアーから行うことができます。ログビューアーについて次で説明します。

3-1. ログビューアー概要

ログビューアーでは、ランタイム単位での表示やログ種別単位での表示、処理時間単位での集計表示といった機能があります。

<< 注意 >>

ランタイム実行ログを出力するためには、事前に実行ログの設定を行う必要があります。
※実行ログの設定については「2. 実行ログの設定」をご覧ください。

3-2. 起動方法

ログビューアーの起動方法としては以下の 2 通りの方法があります。

- ・ マネージャーのツールメニュー [ツール]-[ログビューアー] を選択
- ・ マネージャーのツールボタン [ログビューアー] を選択

※ログビューアーの初回起動時は実行ログファイルの追加が行われていません。ログリストへ実行ログの内容を表示するには、初めにログファイルの追加を行う必要があります。ログファイルの追加については後述の「3-4. ログファイルの追加」をご覧ください。

3-3. 画面説明

3-3-1. メイン画面

図：ログビューアー

ID	ジョブ ID	種別	イベント	日付	開始	終了	処理時間
85	26282	Error	CS-00-02-2201	2017/12/06	15:08:20.428	15:08:20.653	0.2
83	32403	Error	CS-00-02-2201	2017/12/06	15:08:19.612	15:08:19.867	0.3
81	30132	Error	CS-00-02-2201	2017/12/06	15:08:18.539	15:08:19.059	0.5
79	08234	Error	CS-00-02-2201	2017/12/06	15:08:16.865	15:08:17.914	1.0
77	02149	Information	CS-00-01-0102	2017/12/06	15:08:03.588	15:08:03.685	0.1
75	28647	Information	CS-00-01-0102	2017/12/06	15:08:03.396	15:08:03.488	0.1
73	22051	Information	CS-00-01-0102	2017/12/06	15:08:03.194	15:08:03.286	0.1
71	15781	Information	CS-00-01-0102	2017/12/06	15:08:03.002	15:08:03.132	0.1
69	09968	Information	CS-00-01-0102	2017/12/06	15:08:02.824	15:08:02.911	0.1
67	04253	Information	CS-00-01-0102	2017/12/06	15:08:02.649	15:08:02.743	0.1
65	31274	Information	CS-00-01-0102	2017/12/06	15:08:02.473	15:08:02.569	0.1
63	25298	Information	CS-00-01-0102	2017/12/06	15:08:02.290	15:08:02.377	0.1
61	20432	Information	CS-00-01-0102	2017/12/06	15:08:02.141	15:08:02.233	0.1
59	13542	Information	CS-00-01-0102	2017/12/06	15:08:01.990	15:08:02.020	0.1
57	07533	Information	CS-00-01-0102	2017/12/06	15:08:01.746	15:08:01.837	0.1
55	01688	Information	CS-00-01-0102	2017/12/06	15:08:01.568	15:08:01.658	0.1
53	28251	Information	CS-00-01-0102	2017/12/06	15:08:01.377	15:08:01.464	0.1
51	22471	Information	CS-00-01-0102	2017/12/06	15:08:01.200	15:08:01.292	0.1
49	16332	Information	CS-00-01-0102	2017/12/06	15:08:01.012	15:08:01.143	0.1
47	10225	Information	CS-00-01-0102	2017/12/06	15:08:00.825	15:08:00.914	0.1
45	04837	Information	CS-00-01-0102	2017/12/06	15:08:00.660	15:08:00.752	0.1

ツールメニュー

[ファイル]

[ログファイルの追加]

ランタイムから出力された実行ログファイルをログビューアーへ追加します。

追加された実行ログファイルは、以降のログビューアー起動時に自動的に読み込まれます。

[選択したログファイルをリストから削除]

現在選択されている実行ログファイルをログビューアー上から削除します。

削除された実行ログファイルは、以降のログビューアー起動時に自動的に読み込まれません。

※実行ログファイル自体は削除されません。

[エクスポート]

ログリスト上で表示されているログの各項目を指定した形式で出力します。

[終了]

ログビューアーを終了します。

[ジョブ]

[表示件数]

ログリスト上で表示するログの表示件数を設定します。

※詳細については後述の「3-3-2. 表示件数設定画面」をご覧ください。

[表示項目]

ログリスト上で表示するログの表示項目を設定します。

※詳細については後述の「3-3-3. 表示項目設定画面」をご覧ください。

[集計モード]

ジョブの開始時間と終了時間を各ジョブごとに集計してログリストへ表示します。

[集計表示]

集計したジョブの処理時間の表示単位を設定します。

分、秒、ミリ秒のいずれかの設定から選択します。

※集計モードが有効時のみ設定可能となります。

[再実行]

ログリスト上で選択されている実行ログのジョブからランタイムを再実行します。

[資源ファイルアーカイブ]

実行ログで指定されている作業ディレクトリに含まれる資源ファイルとログファイルを圧縮したアーカイブファイルを出力します。

※詳細については後述の「3-3-4. アーカイブファイル選択画面」をご覧ください。

※実行ログで指定されている作業ディレクトリが存在しない場合は、作業ディレクトリの参照ダイアログが表示されます。

[表示]

[最新の情報に更新]

ログリストに表示されている実行ログの情報を更新します。

[ヘルプ]

[バージョン情報]

ログビューアーのバージョン情報を表示します。

メイン画面

[表示種別]

ログリストへ表示する表示種別を設定します。ここで選択した表示種別のみログリストへ表示されます。

[ログファイル]

ログリストへ表示するログファイルを設定します。ここで選択した実行ログファイルのみログリストへ表示されます。

[ログリスト]

実行ログの内容が表示されます。なお、表示種別によって背景色が変化して表示されます。

Information : 白

Warning : 黄

Error : 赤

また、ログリスト上で実行ログを選択し、以下のいずれかの操作を行うことで、ログプロパティ画面が表示されます。

- ・ [Enter] キーを押下
- ・ ダブルクリック
- ・ 右クリックメニュー [プロパティ] をクリック

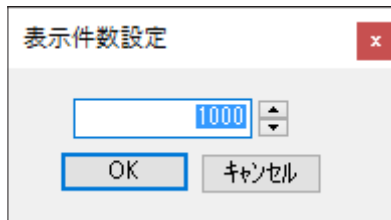
ログプロパティ画面では、実行ログの詳細な情報のほか、再実行と資源ファイルアーカイブを行うことができます。

※ログプロパティ画面については後述の「3-3-5. ログプロパティ画面」をご覧ください。

3-3-2. 表示件数設定画面

メイン画面のツールメニュー [ジョブ] - [表示件数] を選択してクリックすると起動します。

図：表示件数設定



ログリストに表示するログの表示件数を 1 ～ 9999 の範囲で設定します。

※ログの表示件数を大きく設定すると、ログ表示完了までに時間がかかることがあります。

3-3-3. 表示項目設定画面

メイン画面のツールメニュー [ジョブ] - [表示項目] を選択してクリックすると起動します。

図：表示項目設定



ログリストに表示するログの表示項目を設定します。
ログリスト上に表示する項目を選択してください。

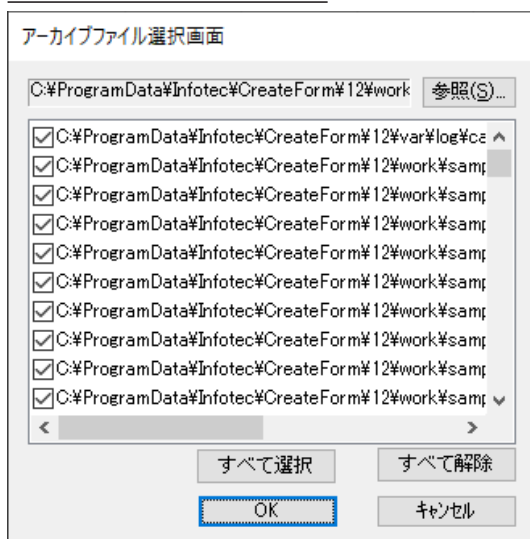
[標準設定を使用] ボタン

ログの表示項目として標準設定を使用します。

3-3-4. アrchiveファイル選択画面

メイン画面のツールメニュー [ジョブ] - [資源ファイルアーカイブ] を選択してクリックすると起動します。

図：アーカイブファイル選択画面



[参照] ボタン

初期値として、選択中の実行ログで指定されている作業ディレクトリが設定されています。アーカイブする作業ディレクトリの変更を行う場合は、ここで作業ディレクトリの指定を行ってください。

[アーカイブファイルリスト]

アーカイブ対象のファイルを指定します。初期値として、作業ディレクトリに含まれるすべての資源ファイルと、実行ログファイルがアーカイブの対象となっています。

[すべて選択] ボタン

アーカイブファイルリストに表示されているファイルをすべて選択します。

[すべて解除] ボタン

アーカイブファイルリストに表示されているファイルの選択をすべて解除します。

<< 注意 >>

アーカイブするファイルパスに、JIS 第1水準漢字、JIS 第2水準漢字、拡張文字（IBM拡張文字・NEC 特殊文字・NEC 選定 IBM 拡張文字）以外の文字やスペースが含まれている場合、アーカイブすることができません。

3-3-5. ログプロパティ画面

メイン画面のログリスト上で実行ログを選択し、ダブルクリックすると起動します。ログリスト上で選択した実行ログの情報を表示します。

図：ログプロパティ画面

ログプロパティ

ID:	3	▲
ジョブID:	30274	▼
イベント:	CS-00-01-0102	
日付:	2021/04/29	
開始時間:	12:47:10.767	
終了時間:	12:47:11.341	
処理時間:	0.6	
種別:	Information	
ログファイル:	castexec.log	
コマンドライン:	-DC:#ProgramData#Infotec#CreateForm#12#work %sample#01 申請・申込書 -s A02_JukiCardShinseisty - o A02_JukiCardShinsei.pdf A02_JukiCardShinsei.csv	
内容:	正常終了しました。	
対処法:		

再実行(B) 資源ファイルアーカイブ(S)... 閉じる

[▲] ボタン

ログリストの選択位置を一つ上へ移動します。同時にログプロパティ画面の内容も更新されません。

[▼] ボタン

ログリストの選択位置を一つ下へ移動します。同時にログプロパティ画面の内容も更新されません。

[再実行] ボタン

表示されている実行ログのジョブからランタイムを再実行します。

[資源ファイルアーカイブ] ボタン

表示されている実行ログで指定されている作業ディレクトリの資源ファイルと実行ログファイルをアーカイブします。

※詳細については前述の「3-2-4. アーカイブファイル選択画面」をご覧ください。

※実行ログで指定されている作業ディレクトリが存在しない場合は、作業ディレクトリの参照ダイアログが表示されます。

[閉じる] ボタン

ログプロパティ画面を終了します。

3-4. ログファイルの追加

ログビューアーで実行ログの内容を表示するには、ログファイルの追加を行う必要があります。

[ファイル] メニュー [ログファイルの追加] から実行ログファイルの追加を行ってください。各ランタイムの実行ログファイルはログ設定ダイアログ (※) で指定した [ログ出力先] にあります。

※ログ設定ダイアログについては「2-3. ログ設定ダイアログ」をご覧ください。

Create!Form 12

ログ出力 第2版

発行日	2024年8月
発行者	インフォテック株式会社